

2025 年度 後学期 教養教育		日英区分 :日本語	
Webアプリケーション開発入門			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2344	LB-1-AS0048-J	【教養教育】学びのリテラシー（２）	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
小川 康一 [Ogawa, Koichi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

本授業では、社会において広く利用されている情報システムやサービスについてのなり立ちや動作原理を学び、これらの背景にある技術要素についての理解を深めるとともに、自ら基本的なWebアプリケーションを組み、実際の動作を確認出来るようになることを目的とする。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の到達目標

Webサービスの仕組みを理解し、説明ができる。
PHPとMySQLを用いて基本的なWebアプリケーションを構築できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

情報システムやWebサービスについての知識を得るとともに、これらの背景にある技術要素について理解し、自ら基本的なWebアプリケーションを開発する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

授業の前半は、講義により情報システムおよびWebサービスについて学び、都度各自のPCにより演習を行う。
授業の後半は、何名かで構成するグループに分かれ、普段感じている課題や不便さについて話し合い、これを解決する独自の新しいシステムやサービスについて、調査、議論、検討を行う。
独自に検討したシステムについて、できるだけ実際に実装を行い、その機能や効果を検証する。
最終成果は、講義内でグループごとに発表を行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回 ガイダンス・イントロダクション
第2回 環境設定・ソフトウェアインストール
第3,4,5,6回 PHPによるプログラミング
第7,8回 データベースについて、MySQL（MariaDB）のインストール、PHPからのデータベースの利用
第9,10,11,12,13、 14回 PHPアプリケーションの実装、グループワーク
第15回 グループ発表

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

課題を出しますので、自ら積極的にアプリケーションを作成し、できたものがどのような動きをするか確認すること。
後半は、Webサービスの調査、開発についてグループで協力して取り組むこと。
なお、授業時間内だけでは、全ての知識を網羅することは困難であるため、動画コンテンツや補助教材を利用し、プログラミングを行ったことがない学生に対する配慮を行う予定である。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

小テスト （20点） A, B
グループ評価（20点） A, B, C
最終課題 （40点） A, B, C
教員評価 （20点） A, B, C

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。
OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

■ ■ メッセージ

自分で実際にやってみないと分かりません。手を動かしてどのような動作をするか確認してください。
可能であれば習得した方法を使って自分でプログラムを作ってみましょう。

■ ■ キーワード

Webアプリケーション、プログラミング、PHP、データベース、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

情報、Linuxリテラシー入門

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

教科書

参考書

参考書1	ISBN	4295201103			
	書名	初心者からちゃんとしたプロになるPHP基礎入門			
	著者名	柏岡秀男 著, 柏岡, 秀男,	出版社	エムディエヌコーポレーション	出版年 2021
	備考				

教科書・参考書に関する補足情報

参考書の購入は必須ではありませんが、記載内容に沿って講義します。
中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3112>

授業言語

参考書・資料：「日本語」
講義・討論：「日本語」

2025 年度 前学期 教養教育			日英区分 : 日本語
はじめて学ぶ地域医療～かしこく健康に生きる～			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1353	LB-1-HS0016-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
小和瀬 桂子 [Kowase Keiko], 佐藤 浩子 [Satoh Hiroko], 堀口 昇男 [Horiguchi Norio], 羽鳥 麗子, 岸 美紀子 [Kishi Mikiko], 大嶋 清宏 [Ohshima Kiyohiro], 浜崎 景 [Hamazaki, Kei], 滝沢 琢己 [Takizawa Takumi], 徳江 豊 [Tokue Yutaka]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ人材になるための素養を育む。

■ ■ 授業の到達目標

- ・地域医療の基礎的知識を理解し、説明することができる。
- ・グループで協働して課題に取り組むことができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

- ・医師不足地域である群馬県と埼玉県の県境地域を題材として、地域医療の現状について学習することを目的とする。
- ・すべて実務経験のある教員による授業であり、各専門分野で実際に地域医療を行っている教員がオムニバス形式の講義を行う。特に、群馬県と埼玉県の地域医療で求められている総合診療、救急医療、感染症、周産期・小児医療、癌診療、高齢者医療等を中心的に扱う。また、医療機関、保健行政等を含めた地域連携についても学ぶ。
- ・両県について住民の視点に立ち「地域を知る」学習・討論を行い、地域医療における課題を受講生自らが抽出し、主体的に学習する機会を設ける。多様な視点からの考えを学生同士で共有し、学習・討論を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義
演習（地域診断についてのグループワークと発表）
オンラインを用いて埼玉医科大学との共同講義と演習を行う。
日本語のみ

■ ■ 授業スケジュール

日程 内容 担当教員
第1回 4月9日 オリエンテーション、地域医療とは、健康とは、地域診断入門 小和瀬
第2回 4月16日 群馬県の地域保健 浜崎
第3回 4月23日 群馬県の救急医療 大嶋
第4回 4月30日 群馬県の周産期医療 滝沢
第5回 5月14日 群馬県の肝疾患事業、アルコール依存防止の取り組み・「地域を知る」という事（グループワークのオリエンテーション） 堀口・小和瀬
第6回 5月21日 かしこく健康に生きる（埼玉医大と合同講義） 群馬大学 田村遊一 前群大病院長
第7回 5月28日 故郷埼玉県・群馬県に根差す在宅医療～世界に一つの特別室～（埼玉医大と合同講義） 齋木実・柴崎（埼玉医大）他
第8回 6月4日 発表準備（グループワーク） 小和瀬、羽鳥、岸、他
第9回 6月11日 発表準備（グループワーク） 小和瀬、羽鳥、岸、他
第10回 6月18日 発表（群馬大学内） 小和瀬、羽鳥、岸、他
第11回 6月25日 発表（埼玉医大と合同） 柴崎（埼玉医大）、小和瀬、他
第12回 7月2日 発表（埼玉医大と合同） 柴崎（埼玉医大）、小和瀬、他
第13回 7月9日 地域医療と感染症 徳江
第14回 7月16日 健康保険、介護保険、地域包括ケアシステムについて 廣田
第15回 7月23日 まとめ 小和瀬

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

日頃から地域医療に関するニュースに触れるようにする。
グループワークを円滑に進めるための資料収集を行う。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

各回の課題 （60％） A
グループワークとプレゼンテーション （30％） B・C
授業態度や学修姿勢 （10％） C・D

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

地域医療は医療従事者だけではなく、住民・行政・その地域で働く人など、多くの人が担うものです。この講座は実際にその分野で活躍している教員が講義し、それを基にみんなで地域を考えていくことを目的としております。さらに、埼玉医大と共同開講することにより、地域の多様性についても学びます。医学科、保健学科はもちろん、共同教育学部、情報学部、理工学部みなさんも大いに歓迎いたします。

■ ■ キーワード

地域医療
地域社会
健康
アクティブラーニング

実務経験
準メディア授業

この授業の基礎となる科目

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	9784787823847				
	書名	地域医療学入門				
	著者名	日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会監修	出版社	診断と治療社	出版年	2019
	備考					
教科書2	ISBN	9784524231560				
	書名	シンプル衛生公衆衛生学2022				
	著者名	鈴木庄亮	出版社	南江堂	出版年	2022
	備考					
教科書3	ISBN	9784623085538				
	書名	保健・医療・福祉のための 専門職連携教育プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント				
	著者名	柴崎 智美 編著 米岡 裕美 編著 古屋 牧子 編著	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2019
	備考					

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

授業言語

教科書・資料：日本語のみ
講義・討論：日本語のみ

2025 年度 後学期 教養教育			日英区分 :日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2209	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
久田 剛志 [Hisada Takeshi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に付けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。
呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ ■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志【実務家教員】

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしよう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけよう
第5回 睡眠中に息がとまってないですか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験
※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。
毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。
試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

各回で課せられたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。
基本的理解 A・B・C
レポートの適切な記載 A・B
履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70％）、各授業における課題（30％）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ ■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2552>

■ ■ 授業言語

使用言語：「英語でもできる」

配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 後学期 教養教育			日英区分 :日本語
がん予防・治療・ケア			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2441	LB-1-HS0002-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
近藤 由香 [Kondoh Yuka], 小澤 厚志 [Ozawa Atsushi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

授業の目的

学生は、がん予防・治療・ケアについての基本的な知識を、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てるために、がん予防・治療・ケアについての基本的な知識を学ぶ。
学生は、学んだがん予防・治療・ケアについての基本的な知識を、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てる必要性を理解する。

授業の到達目標

1. 日本や群馬県におけるがん対策について説明できる。
2. がんの疫学・がん予防に必要な生活習慣を説明できる。
3. がんの治療であるがん薬物療法、放射線療法を説明できる。
4. がん治療に伴うケアの方法を説明できる。
5. がん治療における意思決定支援の必要性を説明することができる。
6. 緩和ケアの概念の変遷から必要性を説明することができる。
7. がん看護における家族ケアの必要性と方法を説明することができる。
8. がんや治療に伴う様々なストレスを緩和する方法について説明できる。

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ☐
- B：論理的・創造的思考力 ☐
- C：コミュニケーション能力 ☐
- D：社会的倫理観・国際性 ☐

授業概要

本科目は、医師、看護師の実務経験のある教員が、実務経験を活かして授業を行う。
第1回、4～15回は看護師の実務経験がある近藤由香が担当する。第2、3回は、医師である小澤厚志が担当する。
がん医療の動向、がん医療をめぐる一次・二次・三次予防の意味を知る。がん発病にいたるメカニズムと主な治療を理解し、がんを予防するための生活習慣について学ぶ。また、がんの早期発見のための検診や自己チェックの方法について理解を深める。それをもとに自分自身の生活を振り返りがんを予防する生活習慣を獲得できるような動機付けとする。さらに治療選択における患者と医師・看護師との関わり、がん薬物療法・放射線療法を受ける患者の症状マネジメント、患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントのあり方を考える。さらに終末期における医療を受ける場、緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。

授業の形式（授業方法）

講義と演習形式である。演習では、学生同士で、がん対策（がん予防教育など）、がんサバイバーへの支援などについて意見交換する。

授業スケジュール

No.	内容
第1回	オリエンテーション、ガイダンス 10/2 近藤由香（実務経験のある教員による授業）
第2回	がん発症メカニズムについて学ぶ 10/9 小澤厚志（実務経験のある教員による授業）
第3回	がんの診断、検査について学ぶ 10/16 小澤厚志（実務経験のある教員による授業）
第4回	がんの疫学、がん医療をめぐる国・県の政策について学ぶ 10/23 近藤由香
第5回	がん予防のための生活習慣について学ぶ 10/30 近藤由香
第6回	がん治療：がん薬物療法とケアについて学ぶ 11/13 近藤由香
第7回	がん治療：放射線治療とケアについて学ぶ 11/20 近藤由香
第8回	がん治療の意思決定について考える 11/27 近藤由香
第9回	グループワーク 12/4 近藤由香
第10回	グループワーク 12/11 近藤由香
第11回	プレゼンテーション 12/18 近藤由香
第12回	がんに伴うストレスを緩和し免疫を高める方法を学ぶ 1/8 近藤由香
第13回	終末期にある家族のケアについて学ぶ 1/15 近藤由香
第14回	緩和ケア、ホスピスケアについて学ぶ 1/22 近藤由香
第15回	まとめ 1/29 近藤由香

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

講義中に課題や参考図書を提示する。復習を行いレポートを作成すること。
自己の考えが述べられているレポートを期待します。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ・課題レポート（70点）A・B・D
- ・プレゼンテーション（30点）A・B・C

出席日数が3分の2に満たないものは評価を受けることができないので注意すること。

成績の評価は、S（90点～100点）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（59点以下）の5段階とし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。問題の難易度により、点数を調整する場合がある。

評価はルーブリックに基づいて行われる。

＜評価担当者＞

- ・課題レポート：近藤由香
- ・プレゼンテーション：近藤由香

■ ■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ ■ メッセージ

積極的な質問を歓迎します。

■ ■ キーワード

がん予防、セルフケア、がん治療、緩和ケア、実務経験、アクティブラーニング

■ ■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ ■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

なし

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

Moodleで、学生への連絡、教員への質問、レポートの提出などを行うことができます。

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/GU/index.php>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：英語でもできる

講義・討論：英語でもできる

2025 年度 前学期 教養教育			日英区分 :日本語
生命保険の仕組みと利活用を考える			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 天野 智英 [Amano, Tomohide]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ ■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ ■ 授業スケジュール

1：オリエンテーション・総論
2：生活設計とリスク管理
3：生活設計と社会保障
4：公的保障と生保(死亡・医療)
5：公的保障と生保(老後・年金)
6：隣接業界・生保の組織・業務
7：グループディスカッション①
8：生保商品の変遷・動向
9：生保の資産運用
10：生活設計と資産運用
11：生命保険と税金
12：トラブル・災害対応とSDG'sへの取り組み
13：グループディスカッション②
14：グループディスカッション② 発表
15：総括（小テスト）
※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

<対面授業の場合>
授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」70点（A,B,C,D）
「最終試験得点」30点（A,B,D）で評価します。
最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。
・社会保障制度の概要の理解
・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解
小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。
<オンライン授業となった場合>
毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。
最終試験は実施ませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ ■ キーワード

公的保障と私的保障，公助と自助，生活設計，リスク管理，実務経験のある教員

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2588>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語のみ
講義・討論：日本語のみ

2025 年度 前学期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
行動科学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB2002	MB-2-HS2002-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
細井 延武 [Hosoi Nobutake]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ～ 2年次	1

■ ■ 授業の目的

行動科学とは、動物や人を含めた生物の行動を科学的に研究する学問であるが、ある「行動」が生じる際には、「脳」を含めた神経系の活動と、その脳活動と密接な関係がある複雑な「心理（こちら）」がそれぞれ背景にある。したがって、行動科学は、「心理」を研究することにもつながり、「脳」を理解することにもつながる。行動科学の基礎を学ぶことにより、人の行動やその背景にある「心理」や「脳」の働きを科学的に理解し、医学・医療に応用しうる素地をつくることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学び、「行動」を科学的に考えることができる。（医C5）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解○
B：論理的・創造的思考力△
C：コミュニケーション能力（医C）
D：社会的倫理観・国際性
E：自己省察力（医A）○
F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
G：チーム医療の中で協働する力（医D）
H：基本的な総合診療能力（医E）
I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
J：医学研究を遂行する能力（医G）
K：自己研鑽（医H）

■ ■ 授業概要

各教員がそれぞれの項目について、コアカリキュラムを参考に、できるだけ視聴覚的に体験できるデモや動画視聴などの手段を用いて、学生に可能な限り体験してもらいながら、解説します。また、後半の部分で、実際に精神科の臨床の現場に立たれている実務経験のある神経精神医学教室の先生方に、臨床医学への導入や橋渡しとなるような講義をして頂く予定です。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

基礎分野と臨床分野双方の教員が担当し、対面での講義形式で授業を行います。講義資料はGuLMS(moodle)上からダウンロードして下さい。講義に関する連絡などは、GuLMS(moodle)を通して行うので、講義時間の前にmoodleでの「行動科学」の講義情報を必ずチェックするようにしてください。

■ ■ 授業スケジュール

前期 金曜日 10:30-12:00 90分

第1回 行動科学・心理学序論①（細井延武） 2025/4/11（金）
第2回 行動科学・心理学序論②（細井延武） 2025/4/18（金）
第3回 生得的行動（細井延武） 2025/4/25（金）
第4回 記憶（配島 旭） 2025/5/02（金）
第5回 習得的行動（学習）①（細井延武） 2025/5/09（金）
第6回 習得的行動（学習）②（細井延武） 2025/5/16（金）
第7回 知覚（細井延武） 2025/5/23（金）

・中間テスト（第1回 行動科学・心理学序論から第7回 知覚 までの範囲）
（筆記試験） 2025/5/30（金）

第8回 動機づけ・欲求・ストレス（配島 旭） 2025/6/6（金）
第9回 脳と行動（細井延武） 2025/6/13（金）
第10回 社会心理学の基礎（細井延武） 2025/6/20（金）
第11回 脳科学の基本（神経精神医学教室担当、武井先生） 2025/6/27（金）
第12回 社会と健康（神経精神医学教室担当、武井先生） 2025/7/4（金）
第13回 心身相関（神経精神医学教室担当、須田先生） 2025/7/11（金）
第14回 パーソナリティ・個人差・知能（配島 旭） 2025/7/18（金）

・期末テスト（第8回 動機づけ・欲求・ストレス 以降の範囲）
（筆記試験） 2025/7月の最終週のいずれかの日（予定）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

座学の講義が中心となるが、参考となるweb上のサイトや動画教材なども紹介する予定です。行動科学は扱う範囲が非常に広いので、各自、講義ごとに復習をしっかり行うとともに、講義で紹介した本やwebサイトなどを積極的に活用して学習に役立ててほしい。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ① ミニテスト、講義感想提出、授業への参加度：到達目標 A, B, E 1 0 %
② 筆記試験:到達目標 A, B, F 9 0 %

医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度が見られた場合、単位を認定しないことがある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科2年生、その他

■ ■ メッセージ

動物や人の行動・心理を科学的に学ぶ最初の機会になると思います。行動や心理は、私たちの脳などの神経系の活動と非常に関係が深いのですが、行動や心理は日常的でとっつきやすい反面、つい、根拠のない思い込みや安易な擬人化、単なる逸話的な解釈などをしてしまいがちでもあるので、科学的にとらえることは想像以上に難しくもあります。人や動物の行動を考えるときに、脳活動との関連やその行動の背景にある「心理」を視野に入れながら、科学的に「行動」を考えることの重要性を学んでほしいと思います。

■ ■ キーワード

行動科学、心理学、神経科学、精神医学、ライフコースアプローチ、実務経験、準メディア授業、アクティブラーニング (講義感想の提出)

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	9784890134489					
	書名	マイヤーズ心理学：カラー版					
	著者名	デーヴィッド・マイヤーズ著；村上郁也訳	出版社	西村書店東京出版編集部	出版年	2015	
	備考						

教科書2	ISBN	978-4-130121170					
	書名	心理学 第5版補訂版					
	著者名	鹿取廣人【ほか】 編	出版社	東京大学出版会	出版年	2020	
	備考						

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5053>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2025 年度 前学期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
組織学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB2012	MB-2-LB2013-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
松崎 利行 [Matsuzaki Toshiyuki], 向後 寛 [Kohgo Hiroshi], 向後 晶子 [Kohgo Akiko], 山本 華子 [Yamamoto Hanako], 池澤 麻衣子 [Ikezawa Maiko], 岩崎 広英 [Hirohide Iwasaki], 村上 徹 [Murakami Tohru], 一ノ瀬 聡太郎, 佐藤 健 [Satoh Ken], 佐藤 美由紀 [Satoh Miyuki], 前島 郁子 [Maejima, Ikuko], 佐藤 裕公 [Satouh Yuhkoh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~ 2年次	2

■ ■ 授業の目的

医学を学ぶ上で必要不可欠な知識として、人体を構成する器官の構造と機能を組織、細胞レベルで理解し、説明できるようにする。

■ ■ 授業の到達目標

- 1.学生は、肉眼解剖学の知識と合わせて、組織・細胞レベルでの人体の構造と機能を説明できる。（医学科コンピテンシーB1-Ⅱ,B3-Ⅰ,B5-Ⅱ）
- 2.学生は、組織標本を顕微鏡で観察して、その構造を説明できる。（医学科コンピテンシーB1-Ⅱ,B3-Ⅰ,B5-Ⅱ）
- 3.学生は、将来の医療現場で必要な知識を身に付ける講義・実習であることを自覚し、緊張感を持ってぶさわしい態度で取り組みることができる。（医学科コンピテンシーC1-Ⅲ）
- 4.学生は、講義・実習における約束事を守ることができる。（医学科コンピテンシーC1-Ⅲ）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力（医学科アウトカムC） △
D：社会的倫理観・国際性 △
E：自己省察力（医学科アウトカムA） △
F：知識の獲得と知識を応用する力（医学科アウトカムB） ○
G：チーム医療の中で協働する力（医学科アウトカムD） -
H：基本的な総合診療能力（医学科アウトカムE） -
I：地域医療の向上に貢献する能力（医学科アウトカムF） -
J：医学研究を遂行する能力（医学科アウトカムG） △
K：自己研鑽（医学科アウトカムH） △

■ ■ 授業概要

解剖学・組織学の実務経験を有する担当教員が、各回のテーマについて実習開始時に最低限の内容の講義（実習内容の説明）をします。履修生は録画授業や教科書を活用して予習をしたうえで、実習で実際の組織標本を観察して理解を深めます。実習では毎回課題の提出があります。また、確認のためのミニテストをLMSまたは実習開始時におこなうことがあります。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

この授業は講義と実習から構成されますが、大学では原則として実習のみを実施します。

実習前の講義と実習標本の説明については、あらかじめ録画して指定したGoogleドライブでオンデマンドで提供しますので、必ず事前に自宅で学習をしてください。録画の視聴と自己学習が必要になります。質問については、実習時間などに随時受け付けます。

■ ■ 授業スケジュール

火曜日 4時限から7時限（13：00～17：30） 第8回のみ例外的に水曜日午前
第1回 4月8日 上皮組織 講義担当：松崎利行 実習担当：松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第2回 4月15日 結合組織 講義担当：松崎利行 実習担当：松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第3回 4月22日 骨・軟骨組織 講義担当：松崎利行 実習担当：松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第4回 5月13日 神経組織（中枢神経系含む） 講義担当：松崎利行 実習担当：松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第5回 5月20日 筋組織 講義担当：池澤麻衣子 実習担当：池澤麻衣子、松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子
第6回 5月27日 血液・循環器 講義担当：向後晶子 実習担当：向後晶子、松崎利行、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
試験（前半）6月3日 範囲は第1回から第6回
第7回 6月10日 消化器 講義担当：佐藤健 実習担当：佐藤健、佐藤美由紀、前島郁子、佐藤裕公
第8回 6月11日（水）午前 消化器 講義担当：佐藤健 実習担当：佐藤健、佐藤美由紀、前島郁子、佐藤裕公
第9回 6月17日 呼吸器 講義担当：松崎利行 実習担当：松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第10、11回 6月24日 皮膚・免疫 講義担当：村上徹、一ノ瀬聡太郎 実習担当：村上徹、一ノ瀬聡太郎
第12回 7月1日 泌尿器 講義担当：松崎利行 実習担当：松崎利行、向後晶子、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第13回 7月8日 生殖器 講義担当：向後寛 実習担当：向後寛、松崎利行、向後晶子、山本華子、池澤麻衣子
第14回 7月15日 内分泌器 講義担当：向後晶子 実習担当：向後晶子、松崎利行、向後寛、山本華子、池澤麻衣子
第15回 7月22日 感覚器 講義担当：向後寛 実習担当：向後寛、松崎利行、向後晶子、山本華子、池澤麻衣子
試験（後半）7月29日 範囲は第7回から第15回

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

録画講義では必要最低限の内容のみ扱うので、教科書による自学自習は必須です。録画視聴以外の事前・事後学習に2時間以上を要します。事前学習なく実習に臨んでも要領を得ず、学習効果が上がりません。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

以下の項目を評価・集計したうえで最終成績とします。

①6月3日に実施する筆記試験と画像試験：到達目標1，2（ディプロマポリシーABFJK）

②7月29日に実施する筆記試験と画像試験：到達目標1，2（ディプロマポリシーABFJK）

①の筆記試験と②の筆記試験の合計点を100点満点に換算（A）

①の画像試験と②の画像試験の合計点を100点満点に換算（B）

$A \times 0.6 + B \times 0.4$ が最終的な合計点（100点満点）となり、成績判定をおこなう。

ただし、

医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度が見られた場合、単位を認定しないことがある：到達目標3，4（ディプロマポリシーCD）。

実習と試験の欠席の扱いについて

2回の試験を受験するにあたっては、各試験の範囲の実習を終了していることが必須となる。つまり、大学が認定する公欠以外で欠席した場合には、指定された時間を利用して実習を実施する必要がある。実習未実施で試験の受験が認められなかった場合にはその試験の得点は0点として扱う。

また、各試験を正当な理由が無く欠席した場合は追試験の対象とはならず、欠席した試験の得点は0点として扱う。

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科2年生

■ ■ メッセージ

実習では組織標本のスケッチをおこないますので12色程度の色鉛筆を準備してください。

教科書や図譜は必ず準備してください。他人のスケッチを写すような行為は不正行為にあたり厳罰に処するので注意すること。

講義資料や実習実施についての詳細などはMoodleにアップするので必ず確認すること。

■ ■ キーワード

解剖学 組織学 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	978-4-621-30885-1					
	書名	ジュンケイラ組織学第6版（原書16版）					
	著者名	[ジュンケイラ原著]；Anthony L.Mescher [著]；青山裕彦【ほか訳】	出版社	丸善出版	出版年	2024	
	備考	指定教科書とします 必ず購入して 一読した状態で講義・実習に臨むこと					

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN						
	書名	Junqueira's Basic Histology: Text & Atlas 16th edition					
	著者名	Anthony Mescher	出版社		出版年	2021	
	備考	ジュンケイラ組織学の原書					
参考書2	ISBN						
	書名	Histology A Text and Atlas 8th edition					
	著者名	Ross and Pawlina	出版社	Lippincott Williams & Wilkins	出版年	2019	
	備考	Ross組織学の原書（最新版）					
参考書3	ISBN	9784524259298					
	書名	Ross組織学 原書第7版					
	著者名	Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳,Pawlina, Wojciech,内山, 安男, 1947	出版社	南江堂	出版年	2019	
	備考						
参考書4	ISBN	9784758121057					
	書名	バーチャルスライド組織学					
	著者名	駒崎伸二著,駒崎, 伸二,	出版社	羊土社	出版年	2020	
	備考						

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

「ジュンケイラ組織学」を必ず購入し、熟読すること。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5063>

■ ■ 授業言語

2025 年度 後学期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
病理総論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3013	MB-2-LD3013-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
横尾 英明 [Yokoo Hideaki], 関 麻衣		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ～ 3年次	2

■ ■ 授業の目的

様々な病気がいかなる原因で発生し、その際にどのような変化が人体内にどのような過程を経て現れるか、その結果、臓器組織細胞に形成された病変はどのような特徴をもっているかを学ぶ。病態は病理学的な言葉で表現される。この授業では病理学的用語の概念を正確に理解することも目標である。

病理学の講義と実習は3年次から6年次まで開講されている。よって各学年ごとに段階的に学習する形式になっている。3年生の病理学（本授業）は病理学総論という位置付けであり、次いで病理学各論を3-4年生に学ぶ。その後は医療における病理学の役割について理解してもらうことを目的に、必修ポリクリが4-5年生に、選択ポリクリが5-6年生を対象におこなわれる。また6年生の最後に専門性の高い内容を扱う実践臨床病態学講義がおこなわれる。

そうした大きな流れを踏まえて、ここでは3年生にふさわしい授業内容を設定している。授業・実習の終了時にはアウトカムの中のB/知識の獲得と知識を応用する力を身につけることを目的とし、特に基礎的知識の獲得に加えて、病理学的知識の疾患への応用、病態の原因となる病理組織の理解へ展開する能力、態度を身につけることを目的としている。さらに学習方法、自己研鑽として、課題学習を通じ、課題を解決し、取り組む姿勢を持ち、議論を行い、同僚から助言を求めることができることを目的としている。

■ ■ 授業の到達目標

1. 医学の基礎となる病理学の幅広い知識を身につける。（医B-1）
2. 病理学の知識を病因・病態の理解に活用できる。（医B-2）
3. 病理学の知識を有し、基礎医学や臨床医学の知識と関連付けて説明できる。（医B-3）
4. 病理学を含む様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。（医B-5）
5. 病理学学習における自分の課題を把握し、解決に取り組む姿勢を持つ。（医A-1）
6. 診療を行うために必要な基本的な知識を身につける。（医E-5）
7. 病理学の知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。（医H-2）
8. 病理学的課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる。（医H-3）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解○
B：論理的・創造的思考力○
C：コミュニケーション能力（医C）△
D：社会的倫理観・国際性△
E：自己省察力（医A）△
F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）○
G：チーム医療の中で協働する力（医D）△
H：基本的な総合診療能力（医E）△
I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
J：医学研究を遂行する能力（医G）
K：自己研鑽（医H）○

■ ■ 授業概要

病理解剖や病理診断の実務経験を持つ病理医の教員が、その実務経験を活かして、基礎医学ならびに臨床医学の観点から病理学に関する授業を行う。本科目では病理学総論の講義、実習、自己学習を基本としている。2回の筆記試験を設けてあり、その他に適宜小テストをおこなう。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義・顕微鏡（バーチャルスライド使用）実習・自己学習から構成される。可能であればTBL(team-based learning)を行う。講義スライドはLMSアップする予定である。事情により、講義担当者や内容が変更となる場合、LMSなどを通して学生に告知される。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	（10月01日）（担当：未定） 午前 1－3時限：細胞傷害と適応（講義）
第2回	（10月02日）（担当：未定） 午前 1－3時限：細胞傷害と適応（実習）
第3回	（10月08日）（担当：未定） 午前 1－3時限：炎症と修復1（講義）
第4回	（10月09日）（担当：未定） 午前 1－3時限：炎症と修復2（講義）
第5回	（10月15日）（担当：未定） 午前 1－3時限：炎症と修復（実習）
第6回	（10月16日）（担当：関麻衣） 午前 1－3時限：遺伝性疾患と小児疾患（講義）
第7回	（10月22日）（担当：関麻衣） 午前 1－3時限：遺伝性疾患と小児疾患（実習）
第8回	（10月23日）（担当：未定） 午前 1－3時限：総合演習 *10月29日 午前 1－3時限：試験
第9回	（10月30日）（担当：横尾英明） 午前 1－3時限：循環障害1（講義）
第10回	（11月05日）（担当：横尾英明） 午前 1－3時限：循環障害2（講義）
第11回	（11月06日）（担当：横尾英明、松村望、山崎文子） 午前 1－3時限：循環障害（実習）

第12回	(11月12日) (担当: 信澤純人) 午前 1－3時限 : 免疫異常 (講義)
第13回	(11月13日) (担当: 信澤純人、松村望、山崎文子) 午前 1－3時限 : 免疫異常 (実習)
第14回	(11月19日) (担当: 横尾英明) 午前 1－3時限 : 腫瘍1 (講義)
第15回	(11月20日) (担当: 横尾英明) 午前 1－3時限 : 腫瘍2 (講義)
第16回	(11月26日) (担当: 横尾英明、松村望、山崎文子) 午前 1－3時限 : 腫瘍 (実習)
* 11月27日 午前 1－3時限 : 試験	

■ ■ 授業時間外学修情報
「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

各単元の講義終了後にはミニテストを行うため、講義・実習後の復習が必要である。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

評価項目（配点比率％）：対応する授業の到達目標（関連するディプロマポリシー）
①顕微鏡実習レポート（10％）：到達目標1-8（A・E・F・K）
②筆記試験（80％）：到達目標1-8（A・E・F・K）
③小テスト・提出課題（10％）：到達目標1-8（A・E・F・K）

医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度が見られた場合、単位を認定しないことがある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

2年次までに習得すべき必修科目をすべて習得していること。

■ ■ メッセージ

病理学は医学の主要科目の1つです。しっかりと学習しましょう。

■ ■ キーワード

病理学 実務経験 細胞損傷 腫瘍 炎症 循環障害

■ ■ この授業の基礎となる科目

解剖学 組織学 生化学 生理学 生物学一般

■ ■ 次に履修が望まれる科目

病理各論 法医学 検査学

■ ■ 関連授業科目

臨床医学

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	978-4-621-30862-2				
	書名	ロビンス基礎病理学				
	著者名	Vinay Kumar [ほか] 著	出版社	エルゼビア・ジャパン	出版年	2025
	備考					
参考書2	ISBN	978-4-263-73185-7				
	書名	病理組織の見方と鑑別診断				
	著者名	吉野正 [ほか] 編	出版社	医歯薬出版	出版年	2018
	備考					
参考書3	ISBN	978-4260050425				
	書名	標準病理学				
	著者名	仁木利郎, 小田義直編集; 仁木利郎 [ほか] 執筆	出版社	医学書院	出版年	2023
	備考					
参考書4	ISBN	978-4-263-73203-8				
	書名	解明病理学：病気のメカニズムを解く				
	著者名	加藤光保, 金井弥栄, 菅野祐幸編集	出版社	医歯薬出版	出版年	2021
	備考					
参考書5	ISBN	978-4890134496				
	書名	ルーピンカラー基本病理学				
	著者名	エマニュエル・ルーピン, ハワード・M. ライスナー編; 河原栄 [ほか] 訳	出版社	西村書店	出版年	2015

	備考	
--	----	--

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5082>

授業言語

教科書・資料：「日本語と英語」
講義・討論：「日本語」

2025 年度 後学期 医学部 医学科			日英区分 :日本語
耳鼻咽喉・口腔顎顔面			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
MB3020	MB-3-CA3020-J		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
近松 一朗 [Chikamatsu Kazuaki], 横尾 聡 [Yokoh Satoshi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
	3年次 ～ 3年次		1

■ ■ 授業の目的

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、口腔顎顔面外科学に関して、基礎医学の知識を基に病態生理を学び、それらが相互に関連していることを理解し、応用することを通じて、疾患の診断や治療法までを総合的に理解することを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用できる。(医B2-III)
2. 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。(医B3-II)
3. 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。(医B5-II)
4. 診療を行うために必要な基本的な知識を身につける。(医E5-II)
5. 臨床推論により、疾患を診断する手順を身につける。(医E6-II)
6. 頻度の高い疾患について適切な治療計画を立案できる。(医E7-II)
7. Evidence-based medicine (EBM)を活用することができる。(医E11-I)
8. 知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。(医H2-I)
9. 課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる。(医H3-I)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解◎
B：論理的・創造的思考力○
C：コミュニケーション能力（医C）－
D：社会的倫理観・国際性－
E：自己省察力（医A）－
F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
G：チーム医療の中で協働する力（医D）－
H：基本的な総合診療能力（医E）◎
I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）－
J：医学研究を遂行する能力（医G）－
K：自己研鑽（医H）○

■ ■ 授業概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、口腔顎顔面外科学の実務経験を有する担当教官が、その実務経験を活かして系統的に講義を行なう。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

オムニバス形式による講義による授業である。各疾患の症例提示も適宜行われる。

■ ■ 授業スケジュール

2025年12月2日-2026年1月27日
毎週火曜日 1-3限目
2025年12月2日
①歯科疾患と口腔感染症：小川将
②顎骨嚢胞：小川将
③口腔癌（1）：横尾聡
2025年12月9日
④口腔癌（2）：横尾聡
⑤口腔癌（3）：横尾聡
⑥顎関節症：栗原淳
2025年12月16日
⑦顎口腔外傷：栗原淳
⑧顎変形症：横尾聡
⑨聴・平衡覚解剖生理：萩原弘幸
2025年12月23日
⑩聴・平衡覚検査法：多田紘恵
⑪内耳疾患・神経疾患：多田紘恵
⑫めまい疾患：萩原弘幸
2026年1月6日
⑬外耳・中耳疾患I：茂木雅臣
⑭外耳・中耳疾患II：茂木雅臣
⑮人工内耳・補聴器・小児難聴：茂木雅臣
2026年1月13日
⑯鼻・副鼻腔解剖生理：松山敏之
⑰副鼻腔疾患：松山敏之
⑱頭頸部腫瘍I：近松一朗
2026年1月20日
⑲頭頸部腫瘍II：近松一朗
⑳口腔・咽喉頭疾患：二宮洋
㉑耳鼻咽喉科救急疾患：二宮洋

なお、講義の順序が変更になる場合は事前にLMSにて連絡する。

2026年2月3日火曜日 1限目（AM9:00-AM10:00） 耳鼻咽喉・口腔顎顔面学試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

各講義で事前に配布される資料を観て予習・復習し、理解をより深めること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

全講義終了後に試験を行い、成績を評価する。配点比率 100% (A・B・F・H・K)
なお、口腔顎顔面学の講義では授業の理解度をミニテストにて確認する

医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度がみられた場合、単位を認定しないことがある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科3年生

■ ■ メッセージ

主体的に受講すること

■ ■ キーワード

耳鼻咽喉科学、頭頸部外科学、口腔外科学、顎顔面外科学、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、免疫学

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5089>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2025 年度 後学期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
臨床薬理学総論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3024	MB-3-CA3024-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
山本 康次郎 [Yamamoto, Kohjiroh], 八島 秀明 [Yashima, Hideaki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ～ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

これまで身につけてきた基礎医学・臨床医学の各分野における知識を互いに関連付けて応用することにより、基本的な総合診療能力である薬物治療の設計・実践に必要な知識・技術を身につける。また、医薬品の適正使用を題材として、最善の医療を実践するために、生涯にわたり自己研鑽を行う意欲を持ち続けることの重要性を学ぶ。

■ ■ 授業の到達目標

1. 医薬品の開発から承認に至るまでの過程を学び、さまざまな分野でキャリアを継続し、社会に貢献する意思を持つ（医H4-Ⅲ）
2. 医薬品情報を科学的に吟味し、Evidence-based medicine(EBM)を活用することができる(医E11-Ⅱ)
3. 生体機能蛋白の機能に基づく薬効の個人差を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる（医B3-Ⅱ）
4. 特殊な母集団における薬物投与設計を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる（医B3-Ⅲ）
5. 薬物間相互作用が生じる機構を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる（医B3-Ⅱ）
6. 薬効の個人差に関与する様々な領域の知を横断的に関連付け、総合することができる（医B5-Ⅱ）
7. 薬害が生じた背景を題材として、人間と社会にかかわる知を広く学ぶ姿勢をもつ（医B4-Ⅲ）
8. 薬物動態の理論を応用し、頻度の高い疾患について適切な治療計画を立案できる（医E7-Ⅲ）
9. 処方箋の作成および医薬品の適切な取り扱いのために必要な知識を身につける（医E5-Ⅱ）

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解◎
B：論理的・創造的思考力△
C：コミュニケーション能力（医C）△
D：社会的倫理観・国際性○
E：自己省察力（医A）△
F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）△
G：チーム医療の中で協働する力（医D）○
H：基本的な総合診療能力（医E）○
I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）△
J：医学研究を遂行する能力（医G）△
K：自己研鑽（医H）○

■ ■ 授業概要

医薬品を薬物治療に用いる際に、薬物の薬理学的作用に加えて考慮すべきこととその技術を学びます。授業中に提示した課題を提出してもらいます。授業中にミニテストを実施することがあります。薬剤師の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、医薬品や薬物治療に関する授業を行います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

提出課題に基づいた事前学習・復習が行われていることを前提に講義および演習を行います。

■ ■ 授業スケジュール

- | | | | |
|------|--------|-------------|---------------------------------|
| 第1回 | 12月4日 | 2限 | 医薬品に関わる規制（山本康次郎） |
| 第2回 | 12月4日 | 3限 | 医薬品の開発と臨床試験・EBM（山本康次郎） |
| | 12月11日 | | 予備日 |
| 第3回 | 12月18日 | 2限 | 医薬品の剤型と薬物動態（山本康次郎） |
| 第4回 | 12月18日 | 3限 | 薬物有害反応・薬物アレルギー・薬物依存（山本康次郎） |
| 第5回 | 12月25日 | 2限 | 薬効の個人差の原因となる生体機能蛋白（荒木拓也） |
| 第6回 | 12月25日 | 3限 | 薬物間相互作用（八島秀明） |
| 第7回 | 1月8日 | 2限 | 小児・妊婦・臓器障害患者に対する薬物投与設計（山本康次郎） |
| 第8回 | 1月8日 | 3限 | 小児・妊婦・臓器障害患者に対する薬物投与設計・演習（八島秀明） |
| 第9回 | 1月15日 | 2限 | TDM・処方設計（荒木拓也） |
| 第10回 | 1月15日 | 3限 | TDM・処方設計・演習（荒木拓也） |
| 第11回 | 1月22日 | 1限 | 処方箋の書き方（荒木拓也） |
| 第12回 | 1月22日 | 2限 | 医薬品が関連する事故とその対策・処方箋作成（荒木拓也） |
| 第13回 | 1月22日 | 3限 | 医薬品が関連する事故とその対策・処方箋作成演習（荒木拓也） |
| 第14回 | 1月29日 | 2限 | 医薬品情報・薬害（山本康次郎） |
| 第15回 | 1月29日 | 3限 | 薬害被害者の声を聞く（増山ゆかり） |
| | 2月5日 | 10：30～12：00 | 試験 |

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

生化学・生理学・薬理学の理解が十分であることを前提としているので、必要に応じて復習する。課題に基づいて自主学習が授業時間外に行われることを前提としている。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

到達目標に関連した筆記試験（80％）（A,D,F,G,H）
提出課題と演習の成績（20％）（H,K）
なお、医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度が見られた場合、単位を認定しないことがある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

3年次前期までのすべての科目を履修していること。

■ ■ メッセージ

基礎科学を臨床医学に応用する際の基礎となる内容を含むので、基礎科学を十分に理解した上で臨んでほしい。
「医薬品」は、薬物を製剤化した「商品」でもあるので、社会科学的側面からの理解も深めていただきたい。

■ ■ キーワード

医薬品、副作用、薬物動態、EBM、処方、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

薬理学、生理学、生化学、解剖学

■ ■ 次に履修が望まれる科目

臨床医学1～4、医療安全学

■ ■ 関連授業科目

発達と老化、細菌学

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5093>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2025 年度 前学期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
放射線腫瘍学・腫瘍内科学		
時間割コード	ナンバリング	科目分野
MB4008	MB-3-CB4008-J	
担当教員（ローマ字表記）		
大野 達也 [Ohno Tatsuya], 渋谷 圭 [Shibuya Kei], 尾池 貴洋 [Oike Takahiro], 久保 巨輝 [Kubo, Nobuteru], 安藤 謙 [Andoh Ken], 高張 大亮 [Takahari, Daisuke], 櫻井 麗子 [Reiko Sakurai], 山田 真紀子 [Yamada Makiko], 塚本 憲史 [Tsukamoto Norifumi]		
対象学生	対象年次	単位数
	4年次 ～ 4年次	1

授業の目的

国民の2人に1人はがんに罹患し、手術療法、放射線治療、薬物療法などを受けている。この授業では、国のがん対策や、がん医療における放射線腫瘍学や腫瘍内科学に関する知識を身につけ、応用力を高めることを目標とする。

授業の到達目標

1. 医学の基礎となる自然科学の幅広い知識を有する。(医B1)
2. 基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用できる。(医B2)
3. 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。(医B3)
4. 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。(医B5)

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解◎
B：論理的・創造的思考力○
C：コミュニケーション能力（医C）
D：社会的倫理観・国際性◎
E：自己省察力（医A）
F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
G：チーム医療の中で協働する力（医D）
H：基本的な総合診療能力（医E）
I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）
J：医学研究を遂行する能力（医G）
K：自己研鑽（医H）

授業概要

各種悪性腫瘍に対する放射線治療や薬物療法の適応、治療法、治療効果について講義する。
教員は、がん診療の実務経験をもとに講義を行う。

毎回ミニテストを実施する。

授業の形式（授業方法）

講義形式で行う。小人数のグループ討議を行うことがある。

授業スケジュール

第1回 6月6日 1時限 塚本憲史 国のがん対策、がんの診断
第2回 6月6日 2時限 塚本憲史 がんの生物学（1）
第3回 6月6日 3時限 塚本憲史 がんの生物学（2）
第4回 6月13日 1時限 山田真紀子 緩和ケア
第5回 6月13日 2時限 高張大亮 抗がん薬総論（1）
第6回 6月13日 3時限 高張大亮 抗がん薬総論（2）
第7回 6月20日 1時限 高張大亮 臨床試験、臨床評価、その他
第8回 6月20日 2時限 高張大亮 Oncology Emergency、Onco-Cardiology、その他
第9回 6月20日 3時限 櫻井麗子 支持療法
第10回 6月27日 1時限 大野達也 臨床放射線腫瘍学総論
第11回 6月27日 2時限 大野達也・熊澤琢也 緩和的放射線治療
第12回 6月27日 3時限 大野達也・佐藤浩史 放射線治療効果の評価、効果判定
第13回 7月4日 1時限 大野達也・熊澤琢也 脳・中枢神経系腫瘍の放射線治療
第14回 7月4日 2時限 大野達也・武者篤 頭頸部腫瘍の放射線治療
第15回 7月4日 3時限 久保巨輝 呼吸器腫瘍の放射線治療
第16回 7月11日 1時限 大野達也・宮坂勇平 乳腺腫瘍の放射線治療
第17回 7月11日 2時限 大野達也・宮坂勇平 消化器腫瘍の放射線治療
第18回 7月11日 3時限 安藤謙 婦人科腫瘍の放射線治療
第19回 7月18日 1時限 大野達也・大西真弘 泌尿器腫瘍の放射線治療
第20回 7月18日 2時限 大野達也・大高建 小児・血液腫瘍・リンパ系腫瘍の放射線治療
第20回 7月18日 3時限 大野達也・森康晶 皮膚・骨軟部腫瘍の放射線治療
第22回 7月25日 10:00-11:30 試験

授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

事前に「やさしくわかる放射線治療学」の該当箇所や講義レジュメに目を通しておいください。
授業後は配布プリントとノートを読み返し、図表の内容や重要なポイントを理解すること。

成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

放射線腫瘍学、腫瘍内科学の問題を各50点満点で出題する。
試験はそれぞれの分野毎に採点し、いずれもが6割以上で合格とする。再試験は6割未満の分野に対して行う。

放射線腫瘍学分野 配点：①筆記試験 90% ②ミニテスト 10%：到達目標1, 2, 3, 4（A・B・D・F）
腫瘍内科学分野 配点： ①筆記試験 90% ②ミニテスト 10%：到達目標1, 2, 3, 4（A・B・D・F）

医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度が見られた場合、単位を認定しないことがある。

■ 受講条件（履修資格）

医学科4年生

■ メッセージ

放射線腫瘍学については、古典的な治療法から最先端の高精度放射線治療，ならびに重粒子線治療まで網羅する講義である。事前に「やさしくわかる放射線治療学」の該当箇所や講義レジュメに目を通しておいください。授業では事前の予習を前提に、小グループで症例検討を行うことがあります。

腫瘍内科学は、国のがん対策、がんの分子機構、細胞障害性抗がん薬、分子標的薬、免疫療法、支持療法、緩和ケアなど、がん薬物療法に必要な知識を網羅する講義である。

■ キーワード

放射線腫瘍学、腫瘍内科学、集学的治療、抗がん薬治療、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

放射線基礎医学

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

教科書1	ISBN	4055200528				
	書名	やさしくわかる放射線治療学 改定第2版				
	著者名	日本放射線腫瘍学会 監修,日本放射線腫瘍学会,	出版社	学研メディカル秀潤社	出版年	2024
	備考	医学生や研修医向け				

教科書2	ISBN	4524227393				
	書名	新臨床腫瘍学 改訂第6版				
	著者名	日本臨床腫瘍学会	出版社	南江堂	出版年	2021
	備考					

教科書3	ISBN	9784524225422				
	書名	入門腫瘍内科学 改訂第3版				
	著者名	日本臨床腫瘍学会	出版社	南江堂	出版年	2020
	備考	改訂第4版が2025年3月に出版予定です。				

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784307071314				
	書名	放射線治療計画ガイドライン				
	著者名	日本放射線腫瘍学会編	出版社	金原出版	出版年	2024
	備考	内容は放射線治療専門医向けである				
参考書2	ISBN	4055200498				
	書名	がん・放射線療法				
	著者名	大西洋 [ほか] 編集	出版社	Gakken	出版年	2023
	備考	最も内容は詳しいが、その分量が多い				
参考書3	ISBN	4307071174				
	書名	放射線治療 基礎知識図解ノート 第2版				
	著者名	榮 武二、櫻井 英幸、磯辺 智範、佐藤 英介	出版社	金原出版	出版年	2021
	備考	豊富な図解と写真が特徴				

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5102>

■ 授業言語

教科書・資料：「日本語」
講義・討論：「日本語」

2025 年度 前学期 医学部 医学科		日英区分 :日本語
脳・神経学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB4009	MB-3-CC4009-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
池田 佳生 [Ikeda Yoshio]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	4年次 ～ 4年次	1

■ ■ 授業の目的

脳神経内科学および脳神経外科学に関して、基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用し、各疾患の病態生理、診断法や治療法について総合的に理解することを目指す。

■ ■ 授業の到達目標

1. 基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用できる。(医B2-Ⅲ)
2. 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。(医B3-Ⅲ)
3. 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。(医B5-Ⅲ)
4. 診療を行うために必要な基本的な知識を身につける。(医E5-Ⅱ)
5. 臨床推論により、疾患を診断する手順を身につける。(医E6-Ⅱ)
6. 治療計画を立案する手順を身につける。(医E7-Ⅱ)
7. Evidence-based medicine (EBM)を用いて症例を考察することができる。(医E11-Ⅱ)
8. 知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。(医H2-Ⅱ)
9. 課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる。(医H3-Ⅲ)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解◎
B：論理的・創造的思考力○
C：コミュニケーション能力（医C）－
D：社会的倫理観・国際性○
E：自己省察力（医A）－
F：知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
G：チーム医療の中で協働する力（医D）－
H：基本的な総合診療能力（医E）◎
I：地域医療の向上に貢献する能力（医F）○
J：医学研究を遂行する能力（医G）－
K：自己研鑽（医H）○

■ ■ 授業概要

脳神経内科学および脳神経外科学の診療を担当する各科の教官により、オムニバス形式で運営される。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

対面式の講義を行う予定である。講義に用いる資料はLMSを通じて事前配布される。

■ ■ 授業スケジュール

4月23日（水）と5月7日（水）は曜日が異なるため要注意（火曜に祝日が多いための講義代替日）

1. 4月8日（火） 4限 13:00～14:00 神経内科学総論および神経診察のポイント1 池田佳生
2. 4月8日（火） 5限 14:10～15:10 神経診察のポイント2および補助診断法 池田佳生
3. 4月8日（火） 6限 15:20～16:20 ミオパチー 藤田行雄
4. 4月15日（火） 4限 13:00～14:00 脳神経外科総論 大宅宗一
5. 4月15日（火） 5限 14:10～15:10 頭部外傷 藍原正憲
6. 4月15日（火） 6限 15:20～16:20 悪性脳腫瘍 堀口桂志
7. 4月15日（火） 7限 16:30～17:30 中枢神経系感染症、代謝性疾患 藤田行雄
8. 4月22日（火） 4限 13:00～14:00 認知症疾患 笠原浩生
9. 4月22日（火） 5限 14:10～15:10 脳神経内科的脳血管障害、救急疾患 甘利雅邦
10. 4月22日（火） 6限 15:20～16:20 小児奇形・水頭症 堀口桂志
11. 4月23日（水） 5限 14:10～15:10 ニューロパチー 池田佳生
12. 4月23日（水） 6限 15:20～16:20 定位放射線外科・中枢神経感染症 山口玲
13. 5月7日（水） 5限 14:10～15:10 運動ニューロン疾患・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 池田佳生
14. 5月7日（水） 6限 15:20～16:20 てんかん・機能的脳神経外科 板橋悠太郎
15. 5月13日（火） 4限 13:00～14:00 良性脳腫瘍 大宅宗一
16. 5月13日（火） 5限 14:10～15:10 脊椎・脊髄疾患 本多文昭
17. 5月13日（火） 6限 15:20～16:20 脱髓鞘疾患、ミエロパチー 櫻井篤志
18. 5月13日（火） 7限 16:30～17:30 発作性疾患、頭痛 塚越設貴
19. 5月20日（火） 4限 13:00～14:00 錐体外路系疾患 笠原浩生
20. 5月20日（火） 5限 14:10～15:10 脳血管障害、出血性 藍原正憲
21. 5月20日（火） 6限 15:20～16:20 脳血管障害、虚血性 神徳亮介
22. 5月27日（火） 4/5/6限 期末試験 池田佳生

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

各講義で配布される資料を基に、学生各自で授業中に理解を得られなかった事項の確認と復習を行って幅広い知識を身につける。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

評価項目（配点比率％）：対応する授業の到達目標（関連するディプロマポリシー）

①期末試験（100％）：到達目標1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9（A・B・D・F・H・I・K）

成績評価の評語は、A（80-100点） B（70-79点） C（60-69点） D（59点以下）とし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

ただし、医師または研究者を目指す学生としてふさわしくない行動や態度が見られた場合、単位を認定しないことがある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

医学科4年生

■ ■ メッセージ

主体的に学修することを望む。

■ ■ キーワード

脳神経内科、脳神経外科、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

生理学、生化学、薬理学、解剖学

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=5103>

■ ■ 授業言語

使用言語：「日本語のみ」

配布資料：「日本語のみ」